

V. その他

- 1) 常岡 寛. 学会印象記 第64回日本臨床眼科学会一般講演「白内障手術補助・器具」. 眼科 2011; 53(4): 567-8.
- 2) 常岡 寛. 失明の原因となる眼病は「眼底検査」と「目の健康のための生活習慣」で予防. 主婦の友社編. 目年齢を若返らせる, 視力がよくなる100のコツ: 近眼・老眼・白内障・緑内障・黄斑変性など, いっぺんに解決. 東京: 主婦の友社, 2011. p.10-1.
- 3) 常岡 寛. 極小切開への道 - Bimanual phaco vs. Micro co-axial phaco -. 第50回白内障学会総会・第26回日本眼内レンズ屈折手術学会総会記録集 2011; 3.
- 4) 常岡 寛. 生活にあわせた白内障治療. きょうの健康 2011; 10月号: 74-7.
- 5) 常岡 寛. 名医のセガンドオピニオン 老眼. 新「名医」の最新治療 2012: 週刊朝日増刊号. 東京: 朝日新聞社, 2011. p.242-3.

耳鼻咽喉科学講座

教授: 森山 寛	中耳疾患の病態とその手術的治療, 副鼻腔疾患の病態及び内視鏡下鼻内手術の開発
教授: 加藤 孝邦	頭頸部腫瘍, 頭頸部再建外科, 画像診断
准教授: 波多野 篤	頭頸部腫瘍の画像診断, 手術療法
准教授: 小島 博己	中耳疾患の病態とその手術的治療, 頭頸部腫瘍の基礎的研究
准教授: 鴻 信義	鼻・副鼻腔疾患の病態と手術的治療
講師: 飯田 誠	鼻・副鼻腔疾患の病態と手術的治療, アレルギー疾患の基礎的研究
講師: 吉川 衛	鼻・副鼻腔疾患の病態と手術的治療, 鼻・副鼻腔疾患の基礎的研究
講師: 松脇 由典	鼻・副鼻腔疾患の病態と手術的治療, 頭蓋底疾患の手術的治療, 好酸球性炎症の基礎的研究
講師: 谷口雄一郎	中耳疾患の病態とその手術的治療, 中耳粘膜の再生医療

教育・研究概要

I. 耳科領域

中耳粘膜再生の基礎的実験と臨床応用に向けての実験をはじめとして, 真珠腫遺残上皮を標的とした遺伝子治療の研究の開発を行っている。特に, 現在中耳粘膜再生技術の臨床応用に向けての準備を行っており, 真珠腫性中耳炎および癒着性中耳炎に対する粘膜再生技術を応用した新しい手術を行う予定である。また当院で行った真珠腫手術についてのデータはデータベースに記録され, 手術例の病態分析, 術式の検討, 疫学調査, 術後成績などの検討を行っている。難聴担当では代謝異常疾患の内耳生理について実験動物を用いた研究を行っており, 難聴患者の遺伝子解析を信州大との共同研究で行っている。

中耳手術は年間およそ200例が行われている。人工内耳手術も各種デバイスの手術が行われ, 特に炎症性疾患を合併した症例が多いのが特徴である。

さらに錐体部真珠腫などの病変に対しての頭蓋底手術も脳神経外科との協力のもとに行っており、聴力および顔面神経機能を保存できる症例が近年非常に増加している。

中耳炎および難聴外来では現在8人の参加のもと、毎週月曜日午後専門外来を設け、術後患者の診察、経過観察およびデータの管理を主に行っている。患者数も最近では毎週60人を越えている。滲出性中耳炎外来は毎週火曜日午後に行われ、個々の乳突蜂巣の発育程度に応じて治療法の選択を行っている。またチューブ留置期間に関しては経粘膜的なガス交換に伴う中耳腔全圧の変化を測定し、個々の症例に応じたチューブ抜去時期の決定を行っている。

神経耳科領域では、前庭誘発筋電位（VEMP）を取り入れ、球形嚢の機能評価を前庭神経炎、メニエール病、原因不明の浮動性めまい症例等に行い、詳細な診断や治療に役立てている。また疾患別のVEMPによる球形嚢異常の割合やまたメニエール病の発作期と非発作期、病期に応じてのVEMP異常の出現率なども検証している。内リンパ水腫推定検査として、遅発性内リンパ水腫疑い症例にはフロセミド負荷VEMP等も行っている。

内耳性めまいの中で最も多く見受けられるBPPVに対しては赤外線CCDカメラによる眼振検査やENGにより、原因である患側の半規管の同定を行うとともに、半規管結石症に対しては理学療法を施行している。

また中枢性疾患におけるふらつきや偏倚傾向、めまい症状のある症例に対し、神経耳科的精査を行い責任病巣について神経内科医とディスカッションし診断を行っている。

現在は神経内科、放射線医学講座とともに脳血流SPECTを用いたeZIS解析により前庭皮質の局在や前庭系からの大脳皮質への投射の研究をすすめている。

## II. 鼻科領域

鼻副鼻腔炎に対する内視鏡下鼻内手術（ESS）の症例および術後経過に関する前向き研究を行っている。ESSは関連病院も併せ、年間1500例あまりを越え、手術時合併症、術後難治化に関わる因子、嗅覚障害の予後、自覚症状およびQOLの改善度、好酸球性副鼻腔炎また真菌性副鼻腔炎の有病率、などを中心に、詳細な検討を行い国内外の学会、論文に報告している。

頭蓋底疾患（下垂体腺腫、ラトケ嚢胞、頭蓋咽頭腫、鼻性髄液漏、錐体尖部コレステリン肉芽腫症）

に対するナビゲーション支援内視鏡下鼻内手術を脳神経外科との協力のもとに行っており、症例報告ならびに良好な治療成績を報告している。ナビゲーション手術の問題点であった、手術による構造の変化に対応するために術中CT画像充進を全国に先駆けて導入し、その効果と適応について検討している。

ESSの拡大適応と安全性の向上を目指し、立体内視鏡画像とステレオナビゲーションとを重畳表示させるハイテクナビゲーション手術を施行し、問題点・改良点を抽出した。現在、前方斜視鏡下に重畳表示ができるシステムを開発中である。

種々の嗅覚障害患者に対する病態究明と治療方法の開発を行なっている。とくに嗅覚障害者に対するアロマセラピーを用いたりハビリテーションは本邦で初めて試みられている治験であり、その効果が期待されている。

新鮮凍結死体標本を用いた解剖実習をスキルスラボにて継続しており、頭蓋底手術および通常の内視鏡下手術トレーニングを行った。その結果を内視鏡下頭蓋底手術や副鼻腔腫瘍摘出術における手技の改良に反映させた。ネット回線を利用した遠隔医療・遠隔トレーニングシステムの構築を開始した。

好酸球性鼻副鼻腔炎、アレルギー性真菌性鼻副鼻腔炎の病態解明を行う目的で、環境微生物（真菌、黄色ブドウ球菌、ダニ、ゴキブリ）による気道呼吸上皮、ヒト分離好酸球の活性化とそのメカニズムについて基礎的研究を行っている。

スギ花粉による季節性アレルギー性鼻炎、ダニアレルゲンによる通年性アレルギー性鼻炎に対する免疫療法の効果について検討している。

## III. 頭頸部腫瘍領域

研究面においては、手術の際に摘出した標本からDNAを抽出し、分子標的薬のターゲットとなるEGFRの発現性を見て、それらを今後の研究面や臨床面に応用できるような基礎となる研究を行っている。また今後は、中咽頭癌、口腔癌等の発生に関与していると言われているヒト乳頭腫ウイルス（HPV）の発現を調査する臨床研究や癌ワクチン療法の治験等の臨床面、研究面の様々な分野での癌治療に関わる取り組みを行っていく予定である。

現在の当院における頭頸部癌治療の主体としては、①手術、②RT（放射線治療）、③CRT（放射線化学療法併用療法）である。治療の選択としては、それぞれ各癌の局在、進行度、社会的背景、年齢、Performance Status等のこれらの要因を考慮した上、また頭頸部癌診療ガイドラインに沿った形で決定し

ている。手術おける特徴としては、通常の進行癌に対する根治手術（例えば下咽頭癌に対する咽頭喉頭全摘・遊離空腸再建術や喉頭癌に対する喉頭全摘術等）を施行しているが、機能温存治療として、可能な症例に対しては特に発生機能温存目的にして、積極的に喉頭温存手術（下咽頭部分切除術・遊離皮弁再建術や喉頭部分切除術）を行い、喉頭温存率、生存率の両面において両行な成績を得ている。保存的療法や進行癌に対する後治療として、RT治療やCDDP・5FU併用によるCRT治療を行い良好な成績を得ている。診断においては、NBI内視鏡を日常診療に用いて、中下咽頭表在癌の診断・治療を行い、早期癌の診断・治療に役立てている。

#### IV. 音声・嚥下機能領域

声帯ポリープ・ポリープ様声帯・声帯嚢胞に対し、全身麻酔下にマイクロフラップ法を用いたラリngoマイクロサージェリーを行っている。また、声帯ポリープ、声帯嚢胞などで、入院の上での全身麻酔下手術が困難な症例に対しては、可能な限り、フレキシブルファイバースコープ下での外来日帰り手術を行っている。

喉頭ファイバー及びストロボスコープ所見のみでなく、手術前後の音響分析・空気力学的検査・Voice Handicap Index (VHI) を用いた比較を行うことにより、手術適応及び術式決定ができるよう検討を行っている。

片側性声帯麻痺に対しては、長年アテロコラーゲンの声帯内注入術による外来日帰り手術を行ってきた。アテロコラーゲンの声帯内注入術の限界と考えられる症例に対しては、喉頭枠組み手術を積極的に行っている。

痙攣性発声障害に対し、ボツリヌス毒素注入術を2004年12月より大学倫理委員会の承認のもと行っている。症例は増加傾向にあり、診断・治療に関する臨床的検討を進めるとともに、ボツリヌス治療無効例に対する外科的治療も今後の課題である。

嚥下障害の評価と治療には神経内科リハビリテーション科など他科との連携、および看護師をはじめとするco-medicalとのチームワークが重要である。嚥下内視鏡および嚥下造影検査などをもとに症例の評価を行い、治療方針を決定している。

#### V. 睡眠時無呼吸症候群領域

アレルギー性鼻炎が睡眠障害に関与しているかどうかを確認するため、花粉症患者に対する臨床研究を、昨年に引き続き太田睡眠科学センターで実施した。

中等症以上のObstructive sleep apnea syndrome (OSAS) に対しては(Continuous positive airway pressure) CPAP治療が第一選択とされる一方で、手術治療はその効果と安全性が疑問視されている。そのため、(Uvulo-Palato-Pharyngo-Plasty) UPPPを代表とする手術治療の適応がどのような症例にあるかについて解析を行った。

我が国におけるPolysomnography (PSG) の普及は十分でなく、とりわけ小児のOSASの診断に対してPSGが実施されるケースは極めて少ない。そのかわり、小児のOSASに対しては睡眠中のビデオ録画が広く行われている。そのため、PSGと睡眠中のビデオ録画を同時に行って両者の相関を求め、小児睡眠呼吸障害に対する検査のガイドラインを作成することを試みた。

2009年より導入している遠隔睡眠検査は、医療環境が十分でない施設において非常に有用であるため、現在も太田睡眠科学センターで継続して行っている。

#### 「点検・評価」

今年度は、9月にANA InterContinental Hotel Tokyoにて30th International Symposium on Infection and Allergy of the Nose (ISIAN)ならびに14th International Rhinologic Society (IRS)を同時主催した。ISIANは先々代の主任教授であった高橋良名誉教授が創設された国際学会であり、森山寛教授をはじめ医局員やOBもそれ相当の思い入れがあり、国内外から多くの参加者を受け入れ、大成功の内に閉幕した。それにむけて、講座の多くのスタッフが事務的な雑務に忙殺されたにもかかわらず、論文投稿や研究発表など比較的多くの研究業績を残すことができた。また、研究を遂行する上での重要な研究資金として、文部科学省の科学研究費補助金も基盤研究、若手研究と計9題の交付を受けた。

耳科領域の手術に関しては中耳疾患のみでなく側頭骨錐体尖部病変、頭蓋底病変、内耳道病変に対する手術手技の工夫や成績の評価を行った。鼻科領域の手術においても内視鏡下鼻内手術の術式の適応拡大を行い、眼窩底骨折、下垂体手術、鼻・副鼻腔腫瘍や頭蓋底病変なども対象疾患としえた。頭頸部腫瘍領域では、血管内治療(Interventional radiology: IVR)の頭頸部癌への応用を行うとともに、化学療法同時併用放射線療法を行い、機能温存を図る工夫も行っている。喉頭・音声領域では日帰り手術としての喉頭疾患への手術の確立を目指している。反回神経麻痺に対するアテロコラーゲン注入術の症例数

も増え成績も安定している。また、痙攣性発声障害に対するボツリヌス toxin 注射も良好な症状改善が認められている。睡眠時無呼吸においては、精神神経科、呼吸器内科、歯科などと総合的な診断と治療を行うため、専門外来と PSG のための専用ベッド（2床）が稼働している。現在は、特に顎顔面形態について画像処理を行い、軟組織と骨組織の点から分析や、鼻閉が睡眠時の無呼吸に及ぼす影響の検討を行っている。

## 研究業績

### I. 原著論文

- 1) Wada K, Matsuwaki Y, Moriyama H, Kita H. Cockroach induces inflammatory responses through protease-dependent pathways. *Int Arch Allergy Immunol* 2011; 155 (Suppl.1) : 135-41.
- 2) Okushi T, Yoshikawa M, Otori N, Matsuwaki Y, Asaka D, Nakayama T, Morimoto T, Moriyama H. Evaluation of symptoms and QOL with calcium alginate versus chitin-coated gauze for middle meatus packing after endoscopic sinus surgery. *Auris Nasus Larynx* 2012; 39(1) : 31-7.
- 3) Asaka D, Yoshikawa M, Okushi T, Nakayama T, Matsuwaki Y, Otori N, Moriyama H. Nasal splinting using silicone plates without gauze packing following septoplasty combined with inferior turbinate surgery. *Auris Nasus Larynx* 2011; 39(1) : 53-8.
- 4) Yoshimura T, Moon TC, St Laurent CD, Puttagunta L, Chung K, Wright E, Yoshikawa M, Moriyama H, Befus AD. Expression of nitric oxide synthases in leukocytes in nasal polyps. *Ann Allergy Asthma Immunol* 2012; 108(3) : 172-7.
- 5) Yoshimura N, Goda K, Tajiri H, Yoshida Y, Kato T, Seino Y, Ikegami M, Urashima M. Diagnostic utility of narrow-band imaging endoscopy for pharyngeal superficial carcinoma. *World J Gastroenterol* 2011; 17(45) : 4999-5006.
- 6) Moon TC, Yoshimura T, Parsons T, Befus AD. Microenvironmental regulation of inducible nitric oxide synthase expression and nitric oxide production in mouse bone marrow-derived mast cells. *J Leukoc Biol* 2012; 91(4) : 581-90. Epub 2012 Jan 18.
- 7) Hama T, Yuza Y, Suda T, Saito Y, Norizoe C, Kato T, Moriyama H, Urashima M. Functional mutation analysis of EGFR family genes and corresponding lymph node metastases in head and neck squamous cell carcinoma. *Clin Exp Metastasis* 2011; 29(1) : 19-25.
- 8) Rikitake M, Kaga K. Development of speech and hearing of two children with Pelizaeus-Merzbacher disease presenting only waves I and II of the auditory brainstem response. *Acta Otolaryngol* 2012; 132(5) : 563-9. Epub 2012 Jan 21.
- 9) Nakayama T, Yoshikawa M, Asaka D, Okushi T, Matsuwaki Y, Otori N, Hama T, Moriyama H. Mucosal eosinophilia and recurrence of nasal polyps - new classification of chronic rhinosinusitis. *Rhinology* 2011; 49(4) : 392-6.
- 10) Suzuki R, Kojima H, Moriyama H, Manome Y. Utilization of caspase-14 promoter for selective transgene expression in squamous layers of cholesteatoma in the middle ear. *International Advanced Otolaryngology* 2012; 8(1) : 21-9.
- 11) Nakayama T, Otori N, Komori M, Takayanagi H, Moriyama H. Primary localized amyloidosis of the nose. *Auris Nasus Larynx* 2012; 39(1) : 107-9.
- 12) 三浦正寛, 三浦康士郎 (東京共済病院), 宮崎日出海, 森山 寛. 難治性メニエール病に対する前庭神経切断術術後の前庭代償機転について. *日耳鼻会報* 2011; 114(4) : 418.
- 13) 重田泰史, 大櫛哲史, 吉川 衛, 飯田 誠, 中山次久, 浅香大也, 濱 孝憲, 森 恵莉, 小島純也, 吉田拓人, 飯村慈朗, 和田弘太, 松脇由典, 柳 清, 森山寛, 鴻 信義. 内視鏡下鼻内手術における術中副損傷および術後合併症の検討. *日耳鼻会報* 2012; 115(1) : 22-8.
- 14) 三浦正寛, 三浦康士郎 (東京共済病院), 宮崎日出海, 野村泰之 (日本大学), 森山 寛. 前庭神経切断術術後のめまいの自覚症状と聴力変動について. *Otol Jpn* 2011; 21(4) : 499.
- 15) 小島博己, 濱 孝憲, 小林小百合, 山本和央, 谷口雄一郎, 田中康広, 森山 寛. 慢性中耳炎に対する耳後法 - underlay 法による鼓室形成術の手術成績. *耳鼻展望* 2011; 54(2) : 80-7.
- 16) 小島博己, 山本和央, 濱 孝憲, 小森 学, 田中康広, 森山 寛. アプミ骨手術における日本耳科学会聴力改善の成績判定案と米国耳鼻咽喉科頭頸部外科学会判定基準案との比較. *日耳鼻会報* 2011; 114(4) : 328.
- 17) 森 恵莉, 満山千恵子, 山崎ももこ, 松脇由典. カード型嗅覚同定能検査と基準嗅力検査および静脈性嗅覚検査の比較検討. *日耳鼻会報* 2011; 114(12) : 917-23.
- 18) 高柳博久, 小林俊樹, 須田稔士. 当院 NST 摂食・嚥下・口腔ケアチームの活動とアウトカム. 経口摂取再開時の介入を中心に. *耳鼻と臨* 2011; 57(3) : 96-10.
- 19) 志村英二, 千葉伸太郎, 新井千昭, 高宮優子, 澤田弘毅, 飯村滋朗, 太田史一. Sleep apnea surgery に

- における非侵襲的陽圧呼吸療法 (NPPV, BiPAP) の有用性についての検討. 耳鼻展望 2011; 54(6): 414-9.
- 20) 石田勝大, 牧野陽二郎, 内田 満, 加藤孝邦, 清野洋一, 青木謙祐, 平澤良征. 頸動脈閉塞症例における頭頸部再建. 日マイクロ会誌 2011; 24(4): 433-9.
- 21) 荻野展広, 松脇由典, 尾尻博也, 狩野麻美, 福田国彦. 好酸球性鼻副鼻腔炎のCT画像診断の検討. 臨放 2011; 56(6): 758-62.
- 22) 飯村慈朗, 鴻 信義, 服部麻木, 鈴木直樹, 森山 寛. ステレオナビゲーションシステムを用いた立体内視鏡下鼻内手術. 耳鼻展望 2011; 54(5): 342-6.
- 23) 伊藤裕之 (神奈川リハビリテーション病院), 加藤孝邦, 長友秀樹, 糠澤達志, 石永 一. 当科における最近10年間の誤嚥防止術の統計ならびに誤嚥防止術の文献的考察. 日気管食道会報 2011; 62(3): 315-21.
- 24) 小森 学, 谷口雄一郎, 田中康広, 小島博己. 初発症状に顔面神経麻痺を認めなかった側頭骨内顔面神経鞘腫の臨床的検討. 耳鼻展望 2012; 55(1): 17-21.
- 25) 松脇由典, 大櫛哲史, 鴻信義, 森山 寛. 鼻茸中の真菌および黄色ブドウ球菌由来エンテロトキシン特異的IgE抗体の役割. 耳鼻免疫アレルギー 2011; 29(2): 55-6.
- 26) 浅香大也, 吉川 衛, 中山次久, 吉田拓人, 吉村 剛, 飯村慈朗, 大櫛哲史, 松脇由典, 飯田 誠, 柳 清, 鴻 信義, 森山 寛. 上顎洞性後鼻孔ポリープの臨床的検討. 日耳鼻会報 2012; 115(2): 101-7, np2.
- 27) 宮崎日出海, 中富浩文. 新たな術中聴力モニタリングの開発と聴神経腫瘍に対する聴力温存手術法の確立. 共済医報 2011; 60(2): 196-8.
- 28) 小島博己. 【Decision making in tympanoplasty (その時, あなたはどうする?)】硬膜とS状静脈洞に癒着を伴った真珠腫症例. Otol Jpn 2011; 21(1): 70-6.
- 29) 波多野篤, 澤井理華, 上山亮介, 若山仁久, 長岡真人, 力武正浩, 重田泰史. 当科における口蓋良性腫瘍に対する臨床的検討. 耳鼻展望 2011; 54(6): 406-13.

## II. 総 説

- 1) Matsuwaki Y, Wada K, Moriyama H, Kita H. Human eosinophil innate response to *Alternaria* fungus through protease-activated receptor-2. *Int Arch Allergy Immunol* 2011; 155(Suppl.1): 123-8.
- 2) 鴻 信義. 【好酸球性副鼻腔炎の病態と治療】好酸球性副鼻腔炎の外科的治療. 臨免疫・アレルギー科 2011; 55(4): 442-7.
- 3) 安藤裕史, 千葉伸太郎. 【生活習慣病と耳鼻咽喉科疾患-投薬上の注意-】生活習慣病と睡眠時無呼吸症候群. *ENTONI* 2011; 135: 43-51.
- 4) 加藤孝邦. 【患者・家族の相談に応えるがん診療サ

- ポートガイド】頭頸部がんにかかりつけ医から専門医への質問 頭頸部がんの前がん病変には, どのようなものがあるか教えてください. 治療 2011; 93(4月増刊): 998-9.
- 5) 波多野篤. 喉頭部分切除術における工夫 舌骨付胸骨舌骨筋弁と内視鏡の使. 耳鼻臨床 2011; 104(12): 846-7.
- 6) 小島博己. 【小児の耳鼻咽喉科108の疑問】耳疾患 耳小骨奇形はいつごろ手術をするのか? *JOHNS* 2012; 28(3): 359-60.
- 7) 松脇由典. 【慢性炎症の病態を理解する】慢性炎症の概念と病態 急性炎症の遷延化について. *JOHNS* 2011; 27(11): 1699-704.
- 8) 松脇由典. アレルギーに関する画像とその解説 アレルギー性真菌性鼻副鼻腔炎の画像所見. アレルギー免疫 2012; 19(4): 614-23.
- 9) 鴻 信義. 【鼻副鼻腔疾患に対する新たな治療戦略】鼻副鼻腔乳頭腫に対する内視鏡下鼻内手術. *JOHNS* 2011; 27(6): 913-7.
- 10) 松脇由典. 【私の処方箋】鼻科学領域 真菌性副鼻腔炎. *JOHNS* 2011; 27(9): 1384-5.

## III. 学会発表

- 1) Iimura J, Otori N, Hattori A, Suzuki N, Moriyama H. Superimposed-image guided navigation system for stereo endoscopic sinus surgery. *IRS & ISIAN* 2011. Tokyo, Sept.
- 2) Udagawa T, Tatsumi N, Tachibana T, Saijyo H, Negishi Y, Kobayashi T, Yaguchi Y, Kojima H, Moriyama H, Okabe M. Inward rectifying potassium channel, Kir4.1 (Kcnj10), is expressed not only in glial cells but also in neurons of the mouse vestibular system. 第34回日本分子生物学会年会. 横浜, 12月.
- 3) Miyazaki H, Magnan J. Real time cochlear & facial nerve monitoring for minimally neural invasive VN. 13th International Otology Course of the Causse Ear Clinic. Beziere, June.
- 4) Miyazaki H, Nakatomi H, Moriyama H. The new cochlear monitoring and mapping the eighth cranial nerve by electrical stimulation for acoustic neuroma surgery -real improvement of the hearing preservation-. 28th Politzer Society Meeting. Athens, Sept.
- 5) Suda T, Hama T, Okano S, Seino Y, Yuza Y, Kato T, Moriyama H. Mutation analysis of PIK3CA, KRAS and BRAF and Corresponding EGFR status in head and neck squamous cell carcinoma. 102nd Annual Meeting of the American Association for Cancer Research. Orland, Apr.
- 6) Akiyoshi R, Fukami S, Hirabayashi H, Tanaka H,

- Haruna S. Two cases of ossification of the stapedious tendon. 11th Japan-Taiwan conference on Otolaryngology-Head and Neck Surgery. Kobe, Dec.
- 7) Nakayama T, Asaka D, Okushi T, Matsuwaki Y, Otori N, Moriyama H. Prevalence of eosinophilic chronic rhinosinusitis and allergic fungal rhinosinusitis in Japan. 11th Japan-Taiwan Conference on Otolaryngology-Head and Neck Surgery. Kobe, Dec.
- 8) Nakayama T, Asaka D, Okushi T, Matsuwaki Y, Yoshikawa M, Otori N, Moriyama H. Identification of chronic rhinosinusitis phenotypes. 2011 AAO-HNSF Annual Meeting & OTO EXPO. San Francisco, Sept.
- 9) Yamada Y, Asaka D, Yoshikawa M, Nakayama T, Okushi T, Matsuwaki Y, Otori N, Moriyama H. Evaluation of clinical features of antrochoanal polyps. 2011 AAO-HNSF Annual Meeting & OTO EXPO. San Francisco, Sept.
- 10) Miyazaki H, Magnan J. The role of cochlear monitoring in hearing preservation in VS. 1st CEORL-HNS Meeting. Athens, Sept.
- 11) Suzuki R, Kojima H, Yasuhiro T, Moriyama H, Manome Y. Utilization of caspase-14 promoter for selective transgene expression in squamous layers of cholesteatoma in the middle ear. 28th Politzer Society Meeting. Athens, Oct.
- 12) Otori N. (Live cadava dissection) Endoscopic sinus surgery -advanced technique-. 10th HANA ESS Cadaver Workshop. Seoul, Nov.
- 13) 清野洋一, 飯野 孝, 青木謙祐, 石田勝大, 濱 孝憲, 岡野 晋, 須田稔士, 平澤良征, 牧野陽二郎, 齊藤孝夫, 波多野篤, 加藤孝邦. 再建手術を要する中咽頭癌症例の検討. 第 35 回日本頭頸部癌学会. 名古屋, 6 月.
- 14) Matsuwaki Y. Role of Intraoperative CT-updates during Image-Guided Endoscopic Endonasal Surgery (IGESS). 11th Japan-Taiwan Conference on Otolaryngology-Head and Neck Surgery. Kobe, Dec.
- 15) Matsuwaki Y. Differences and similarities between western countries and Asia in eosinophilic rhinosinusitis. IRS & ISIAN 2011. Tokyo, Sept.
- 16) Otori N. (LIVE surgery) Endoscopic sinus surgery for CRS -modified Takahashi-Moriyama technique-. IRS-ISIAN 2011. Tokyo, Sept.
- 17) Otori N. Concept and basic technique of ESS -for safe and proper operation-. IRS-ISIAN 2011. Tokyo, Sept.
- 18) 小島博己. (教育講演) ファブリー病の耳鼻科的問題. すくろうの会東京セミナー. 東京, 11 月.
- 19) 鴻 信義. 鼻副鼻腔疾患に対する内視鏡手術の最前線. 浜松耳鼻咽喉科セミナー. 浜松, 11 月.
- 20) 松脇由典. 好酸球性鼻副鼻腔炎に対する手術療法と術後治療. 第 50 回日本鼻科学会総会・学術講演会. 岡山, 12 月.
- 21) 宮崎日出海. (特別講演) Retrosigmoid approach による Monitoring based otoneurosurgery. 第 12 回京都側頭骨手術手技研究会. 京都, 1 月.
- 22) Kojima H, Yaguchi Y, Hama M, Yamamoto K, Yamamoto M, Moriyama H. Middle ear regeneration using transplantation of tissue-engineered cell sheet. 28th Polizer Society Meeting. Athens, Sept.

#### IV. 著 書

- 1) Otori N, Yanagi, K, Moriyama H. Section II. Evolving concepts in endoscopic skull base and brain surgery 12. Maxillary and ethmoid sinuses in skull base surgery. In: Stamm AC editor. Transnasal endoscopic skull base and brain surgery. New York: Thieme, 2011. p.109-14.
- 2) 中島庸也. section O: 耳鼻咽喉科. 浅野嘉延 (西南女学院大学), 吉山直樹 (西武文理大学) 編. 看護のための臨床病態学. 東京: 南山堂, 2012. p.719-38.
- 3) 小島博己. 22. 感染性疾患 中耳炎. 横田千津子 (城西大学), 池田宇一 (信州大学), 大越教夫 (筑波技術大学) 監修・編集. 病気と薬パーフェクトガイド 2012 (薬局 2012 年増刊号(63 巻 4 号)). 東京: 南山堂, 2012. p.1153-5.
- 4) 内水浩貴. 第 XII 章: 耳・鼻・咽頭 咽頭嚢症候群. 井村裕夫 (京都大学) 総編集, 福井次夫 (聖路加国際病院), 辻 省次 (東京大学) 編. 症候群ハンドブック. 東京: 中山書店, 2011. p.625.

#### V. その他

- 1) 鴻 信義. 知っ得ワード 鼻の病気 2. 副鼻腔炎. 日経新聞 (朝刊) 2011.7.3(10 面).
- 2) 鴻 信義. 気鋭医師のワザ 難治性慢性副鼻腔炎. 日刊ゲンダイ 2011.10.6.
- 3) 鴻 信義. 今年こそスッキリ爽快! 鼻づまり解消大作戦. カラダのキモチ (TBS). 2012.1.15.
- 4) 鴻 信義. 手術で治す副鼻くう炎. NHK きょうの健康テキスト 2012; 4 月号: 58-61.
- 5) 波多野篤. 耳鼻咽喉科から見たためまい疾患. 第 57 回慈恵医大第三病院公開健康セミナー. 泊江, 2 月.